

新城市議会傍聴記

地方政治
クリエイイト
伊藤 秀昭

■線引きの見直し
加藤芳夫氏は、合併(05年)以来極端な人口減少と超高齢化、特に若者流出が顕著に表れているが、この原因の一つに市街化区域内の都市基盤整備と用途地域制限で住み難い状況を生み出しているとして、線引きの見直しの考えを聞いた。

建設部長は「開発需要の少ない新城市においては区域区分制度の効果が見えづらい状況にある」と答えたが、加藤氏はスポット的な市街化区域への編入などにより、若者が家を建てやすくしないと衰退

の一端をたどると警鐘を鳴らした。
■火葬予約システム
インターネットを利用した火葬予約システムが利用されていないことについて質問したのは長田共永氏。
導入を前に、15年4月に葬祭事業者を対象に説明会を開催したが、インターネットを使える人を使えない人で大きな差が生まれることは納得できないと強い反対意見が出された。現在は斎苑の空き状況と霊柩車の予約状況を確認するだけのシステムになっている。

地域情報化といえども、まだまだ遠いことを印象づけた。

女性議会

小野田直美氏は、新城の女性力を引き出し、市政に反映させる女性議会が過去2回行われたが、その課題と今後の展望について取り上げた。

■徘徊はいかいかい
高年齢者の見守り学校、ことも関
認知症に対する外出支援、動物の里山移動など、市民の安心安全の対策について質問したのは鈴木眞澄氏(公明)。
議論の中で、増加する認知症高齢者の徘徊対策として機器

どう選ばれていくのか新庁舎の主。

地域の中には「男だ女だと言っておれない、みんなやろ」という意識が出てきて、同議会が新城市の女性リーダー育成に大きな役割を果たしている。と評価していたが、中学生議会、若者議会、女性議会と新城の総合力がアップされていると

いうことか。
イネーション・マネー・シメント・オーガニゼーション「地域にある観光資源に精通し、地域と共同して観光地域づくりを行う法人のことは、愛知県と新城市を含む奥三河4市町村が連携し、奥三河観光協議会を日本版DMOとするため検討中。登録申請には、根

浅尾洋平氏(共産)は新城における「子どもの貧困」について質問した。
議論の中で「新城市子ども・子育て世帯生活実態調査」において、貧困世帯の子どもは、年齢が上がるほど一日の食事の回数が増えることが報告された。また貧困世帯の

具体化が見えない。
■新城市総合計画
丸山隆弘氏は来年度に予定される第2次新城市総合計画の策定について取り上げた。
企画部長は「市民自治の本旨に基づき、新城らしさあふれる総合計画を策定していく」と答弁した。

丸山氏は住民に入り込んで第1次計画の策定に関わった経験から、11月の改選前までに同計画の基本構想を作った議会の責任を果たしていきたいと強調し、議会人としての思いにあふれていた。
■豊川イオンの影響
スズキ豊川工場移転とイオンモール出店計画について、新城市に与える影響について聞いたのは滝川健司氏。
産業振興部長は豊川イオンモールの具体的出店計画が明確になっていないが、新城から車で40分の距離にあり、近隣の大型商業施設の地域経済への影響は軽視できない。市民の休日行動や日常の食品などの消費行動に変化が見られると危機感を示した。
滝川氏は共存共栄できる施策が必要ではないかと強調した。

新庁舎の礎(つち)音が響く中で、今秋11月には市長選、市議選が行われる。新城ヶ原に再び風雲急が訪れる。新庁舎の主がどう選ばれていくのか注目したい。